

## 入選

### 言葉掛け

宮崎県 西米良中学校 3年 濱砂 夢芽

私は現在、部活動に所属しています。1年生の頃は運動が苦手で、部活が嫌いでした。試合のときも、同じ学年のペアの子が一生懸命ボールを取ってくれますが、全部私のミスで終わってしまうことがほとんどでした。それでもペアの子は、

「大丈夫。まだできるよ。」

と私を明るい言葉で励ましてくれました。

2年生の頃には、私たちが部活を支えることになりましたが、学校生活の方うまくいかず、学校を休んでしまうことが多数ありました。部活動でもあせりを感じるようになりました。しかしそれでもペアの子は、いつも通りに話しかけてくれました。後輩に少しでも不満があったときにも、「うん、うん」と私の話を最後まで聞いてくれました。

この頃になると、運動は苦手なままだけれど、部活だけはとても楽しく感じられるようになりました。

そして中学校に先輩の存在がなくなってしまった頃、私は再び事件を起こしてしまいました。このときは、まわりの方々にも迷惑をかけてしまいました。なんと繰り返しても、改善できない自分にもイライラしていました。それでもペアの彼女は、

「次、やればいいじゃん。」と、また言葉で励ましてくれました。

現在私たちは、今のペアのまま3年目を迎えました。どんな声をかければいいのか、どこまでなら取りに行けるかなど、それぞれのことがわかるようになりました。

「チャンス。いけるよ。」

などと、今でも私は彼女やまわりの方々の言葉で支えられています。だから私も、

「大丈夫。落ち着いていこう。」

と、言葉を伝えます。

小さな親切は、ドアを開けてあげたり、困っている人の手伝いをするを最初に想像しますが、私にとっての親切は、なにごとがあっても、いつも通りに接して、伝えたいことを言葉にしてくれることです。

でも、2年生までは、何を言ったらいいのか、ポジティブな気持ちになれるのかなどを考えて言葉を伝えていました。しかし今は無意識に、

「ファイト。いけるよ。」

と言っています。そして、言われています。

ミスが多いときなどに言われると、私は冷静に戻ることができます。これが親切なのかはわかりませんが、私はとても救われています。

「おはよう」とか、ひとことで「あ、私に言ってくれたんだ」と幸せな気持ちになります。「昨日ね」と会話が続けると、昨日までのモヤモヤがすべて吹き飛びます。

毎日やっているふつうのことでも、幸せになれるのはとてもすてきなことだと思いました。